

平成 29 年 3 月 10 日

朝日カルチャー「河津桜の丘を歩く」活動報告書

暖かな青空が広がった豊前市の河津桜の丘が博多の人達を暖かく迎え入れてくれました。ミカン畑の作業道の両脇に咲く河津桜を眺めながら、その蜜を求めて人の気配を気にせず飛び交うメジロとともにミカン畑の丘へ進むにつれて、皆さん、素敵な笑顔になって来ました。

初めての朝日カルチャーの行事でしたが、天気と素晴らしい景色が心配事を吹き飛ばしてくれました。河津桜が咲き誇る丘からは真っ青な周防灘も見下ろせ、足元にはシロバナタンポポがたくさん咲き誇っていました。あまりに素晴らしい河津桜、真っ青な空、真っ青な海、真っ白なタンポポで心も踊り、「桜の品種」と「シカによる被害状況／静豊園のオーナー」の難しい話も熱心に耳を傾けていました。



昼食は築上町の菅原道真公が京都から太宰府に左遷された際、船が難破して漂着したと言われている綱敷天満宮の1,000本の梅の咲く広場で弁当を広げました。真っ青な空の下、ジョウビタキも顔を出し、おしゃべりも食事もすすみました。昼食後は天満宮前の浜の宮海岸を散歩しました。大潮と重なった浅瀬では潮干狩りをしている多くの人達がありました。その人達を見ながら海岸特有のトベラ、マサキ、ヒメユズリハなどの樹木や愉快的な葉痕やセグロカモメ、コサギなど野鳥を観察しました。先日のNHKの「ダーウィンが来た／ローマの街にカモメが増えている」を見ていた人も多く、皆さん、「あの正体がそこに見えるセグロカモメ！」と言って騒ぎました。



次に向かった先は奈良時代に豊前国の国府が置かれていた場所のそばに位置している三重塔です。ここでは学芸員の方からみやこ町の古き時代の栄華を教わりました。その後、みやこ町の歴史民俗博物館に移動し、夏目漱石の一番弟子である三四郎のモデルと言われているドイツ文学者でみやこ町出身の小宮豊隆の偉業を勉強しました。あちこちから「みやこ町のことについては全く知らなかったが、今日の話でもう一度遊びにきたい」との声も聞こえてきて、地元の自分にとっては嬉しくなりました。15時10分、皆さん笑顔で手を振りながら博多へ帰りました。(スタッフ：宮本、中村)